第４学年　　道徳科学習指導案

１　主題名　「正しいことを行う勇気」 　 **Ａ－１善悪の判断、自律、自由と責任**

２教材名　スーパーモンスターカード　（出典：光村図書　きみがいちばんひかるとき）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

子どもたちの生活の中には、いくつもの選択肢があり、それを自分で判断しながら生活をしている。これから社会で主体的に生きていくには、よいことと悪いことの区別が的確にできるようにすることが基礎となる。また、自分が正しいと思うことを判断し、行動していくことは人としても大切なことである。本教材では、万引きそのものではなく、その万引きをしようとした友達に対して、どのように行動するかに焦点を当て、友達の将来を思い、勇気を出して注意することを善であると考えた。自らの判断に基づいて、よいこと、正しいと考えることを、周りに流されることなく、自律的に行動しようと努めることは、人間形成において重要なことである。他者との関わりが深まりゆくこの時期にこうした力の大切さについて少しずつ考えさせていきたい。

（２）児童の実態

　本学級の児童は、正義感を素直に表現したり、正しいと思ったことは進んで行動したりすることを大切である、ということを分かっている子は多い。普段の生活でも間違った言動があれば、学級に対して、「あれはよくないと思う。次回からは気を付けよう」と、注意を促すことができる児童もいる。しかし、仲良しの友達が間違ったことをしている時には、周りの言動に流され、正しい行動がとれなかったり、自分には関係ないことだと勝手に判断し、逃げたりする児童も見られる。また、学年が上がるにつれ、集団の中でも力関係が存在するようになり、嫌だと思っていてもはっきり伝えられない場面も見られる。このような姿から、自分が正しいと判断したことを実行することで、将来の自分の生き方へも影響していくこの題材を通して、正しいと思ったことは勇気をもって伝えることの大切さや、その難しさについて考えさせたい。

（３）教材について

新しいスーパーモンスターカードが欲しくてたまらない大地は、「一つぐらい取っても気付かれない」と言った。その言葉を聞いた「ぼく」は、びっくりして何も言うことができなかった。次の日、待ち合わせの公園ではなく、コンビニに向かう大地を見かけて、「ぼく」は嫌な予感がする。後を追ってコンビニに入ると、大地がカードをつかみポケットに入れようとしている。「ぼく」が声をかけると大地は驚き、カードは床に散らばるが、お店の人にとがめられることはなかった。店を出た大地は「どうしてもほしかったんだ」と肩を落とす。そんな大地が「ぼく」がどのように声をかければいいか考えるところで話は終わる。本教材は、大地にどのように接すればよいかを考え悩む「ぼく」の姿と、万引きをしようとした大地の心の弱さが描かれている。「ぼく」がどう判断し、行動すべきか話し合うとともに、正しいことを行う「勇気」について考えを深めたい。

（４）身近な問題として意識付けるために

　児童が今後生活していく中で、友達がコンビニで万引きをしている現場に出会い、その行為を止める経験をする児童は極めて少ないだろう。そこで、自分ごととして捉えるためにも「自分の仲のよい友達だったら、あなたはどうする？」「物を盗む友達とこれからも友達でいられるか」と補助発問を用意し、問いかける。コンビニから万引きしようとした教材の中の人にかける言葉を考えるよりも、自分自身の友達に対する思いを考えた方が考えやすく、身近な問題として意識しやすくなると考える。

４　本時の学習指導

（１）本時のねらい

　友達の間違った行動について考えさせる活動を通して、友達関係が崩れるのを恐れ、見て見ぬふりをするのではなく、友達だからこそ相手の将来を思い、相手のために自分が正しいと判断したことを、自信をもって行う心情を育てる。

（２）準備　児童：教科書、ノート

教師：教科書、資料

（３）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動の流れ  よくないとわかっているのに、止められない。どんな気持ちがあれば止められるかな。 | 教師の支援と評価（♦） |
| ５  １５  ３５  ４５ | １　本時の道徳的価値について自分の思いを考える。  ・しっかり伝えなきゃ、という強い気持ち。  ・友達に対する思いやり。  ・勇気。  何も言うことができなかったぼくは、どんな気持ちかな。  ２　「モンスターカード」の範読を聞き、登場人物の気持ちを考える。  ・なんで言えなかったんだろう。  ・言いたいことは分かっているんだけどな。言わなかったことを後悔している。  ・止められなかった自分は情けない。  「カード、どうしてもほしかったんだ」と言う大地に対して、自分ならどうするかな。  ３　大地の行動に対してぼくがとった行動を確認し、自分だったらどうするかを考える。  【慰める】  ・「お小遣いもらったら一緒に買いに行こうね」  →反省していると思うから、優しく声をかける。  ・「カードを盗んじゃったら、きっと心がもやもやしちゃうよ。お店の人も怒っていなかったし、盗まずにすんでよかったね」  →結局盗んでいないし、落ち込んでいるから。  【怒る】  ・「もうこんなことするなよ。正直にお店の人に話して、謝るよ」  →ちゃんと怒られないと、また同じことをやってしまいそうだから。  ・「物を盗むと、お店にもそれを作っている人やいろんな人にも迷惑がかかるんだよ」  →自分だけがよいという考えはよくないから。  【その他】  ・無言のまま歩く。→声のかけ方が分からない。  ３　本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。  ・友達がよくないことをしていたら、嫌がられるかもしれないけど、勇気をもって伝えよう。  ・友達の将来のことを思って声をかけるのは難しいことだと思った。 | ・ねらいとする道徳的価値を考えさせるために、児童にとって学校生活でありがちな、友達がトイレのスリッパを揃えていない状況などを話し、具体的な生活体験と結びつけて考えるよう促す。  ・自分の気持ちに気づくために、ぼくの気持ちを考えることで相手に伝えるために必要なことを考えられるようにする。  ・児童の意見が見やすくなるよう、板書は系統ごとに分け、構造的に書く。  ・相手のことを思って行動するという意識付けを行うために、児童が発言した際には「どうしてそうしたの」と切り返す。  ・万引きという犯罪の罪の重さや、再犯率を確認するために資料を提示する。  ・声のかけづらさや今後の友達付き合いの悪さ、声をかけられないのは何がそうさせているのかなどの補助発問を投げかける。  【補助発問】  ・自分の仲のよい友達だったらどうする？  ・物を盗んでしまう友達と、これからも友達でいられる？  ・声をかけられないのは、何がそうさせているの？  ・授業の振り返りが教材内容の感想となってしまわないよう、道徳的価値について、自分との関わりで振り返るよう助言する。  ♦友達だからこそ相手の将来を思い、相手のために自分が正しいと判断したことを、自信をもって行う大切さに気付いたか発言やノートの記述から判断する。 |